

編集後記：子どものころ名古屋に住んでいたとき、民放テレビに「お天気レーダー」という番組がありました(今もあります)。そこでは女性の解説者が天気図を見せながら予報の解説をしていました。第2室戸台風が上陸する前夜(1961年9月15日)には、本州上に台風中心が描かれた予想天気図を示して「明日は(台風が東海地方を?) すっぱり覆ってしまいます」と言ったのを覚えています。当時のテレビの天気予報は天気図も解説もなく、予報文だけがまったりとした調子で読み上げられるのが普通でした。NHKですらそうで、天気図を使った解説は異色でした。残念ながら数年後には「お天気レーダー」も解説のない普通の天気予報になってしまいましたが、この番組は私が気象に興味を持つきっかけの1つになりました。「気圧の谷」などの言葉もここで覚えました(意味が分からなくても言葉は覚えるものです)。

今はどの放送局でも気象予報士による解説が見られます。ネットにも気象に関連する情報が溢れていま

す。これらは当たり前すぎて有り難みを感じにくくなりましたが、潜在的には気象に(あるいは自然に)ついての大きな教育的効果があると思います。

と、ここまで考えて、では「天気」が気象知識の普及にどう貢献しているかを思うと心許ないところがあります。編集委員会としても先端的な知見を含めた啓発的な記事の企画に取り組んでいます。10年ほど前に連載した「気象のABC」では、気象学界をリードしてこられた先生方に「面白く読め、かつためになる」ことを旨として話題ごとに解説して頂きました。このシリーズはオンライン天気サイト(<https://metsoc.jp/tenki/>)でご覧頂けます。今年からは、第一線の研究者に気象学の最近の話題を解説して頂く「やさしい解説」シリーズを始めました。このような普及的な活動は会員の皆様の協力によって成り立つものです。ご支援よろしくお願い致します。

(藤部文昭)